大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	190	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	シルバー人材センター補助事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	高齢支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.01	63	02	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 公益社団法人大田原市シルバー人材センター
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 就業意欲のある高齢者に対し、臨時的短期的な就業の機会を組織的に提供し、就業を通じて高齢者の福祉の増進を図る。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 公益社団法人大田原市シルバー人材センターが行う高年齢者就業機会確保事業の実施に要する経費及びセンターの運営に要する経費の一部について交付する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 財政的支援により高齢者の活力ある就業の場の確保及び人材センターの基盤強化を図る。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①補助金交付額	予算から	18,400	千円
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①会員数	前年度の実績	279	人
			②入会率	前年度の実績	1.00	%
			③受託契約金額	前年度の実績	152,243	千円

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	シルバー人材センターが行う事業のうち、国が指定する高年齢者就業機会確保事業の実施に要する経費の一部に対し補助金を交付した。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	17,135	17,135			
	(c) コストの対前年比		100.00%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	14	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 補助金交付額	18,400	千円	17,085	1	増加指標	92.90	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 会員数	266	人	278	1	増加指標	104.50	%	a	a
	② 入会率	1.00	%	1.07	1	増加指標	107.00	%	a	
	③ 受託契約金額	150,483	千円	159,653	1	増加指標	106.10	%	a	

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	シルバー人材センターに対して事業費補助金を交付することで財政支援を行い、広く広報・周知に努めるよう働きかけ、充実・強化を図る。	
	前年度からの改善結果	改善した	シルバー人材センターに対し、事業費補助等の財政支援を行い、対象経費における国費補助金との配分について確認を行った。 専門的な技術を持った会員を確保するため、広報紙等による周知活動に努めた。 令和7年度から、事務局長職に市職員を派遣している。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	高齢者の求職の機会を確保するため、補助金の交付による支援を行うことは必要である。 高齢化社会が急速に進展する中で、健康で働く意欲と能力を持った高齢者の就業を促進することは、高齢者の生きがいづくりだけではなく、地域の活性化にもつながるものと期待している。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	定年延長や継続雇用制度の実施によって、退職せずに継続して勤める人が多くなっているため、会員確保が難しい状況になってきている。 専門的技能や知識を要する業務について、従事できる会員が減少したことから受注が難しくなっている。 令和7年度から、外部理事・外部監事に市職員が委嘱されている。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	シルバー人材センターに対する事業費補助金の交付を継続して財政支援を図るとともに、会員獲得や業務受注のための広報・周知を連携して実施する。 高齢者の就労を市全体の課題と捉え、介護保険事業である第1層協議体で活性化策について議論する。 補助金の額を適正に算出するため、財務や事業内容の把握に努める。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	シルバー人材センターに対する事業費補助金による財政支援を継続する。 利活用策について、第1層協議体で検討することで新規登録者、利用者の獲得、新サービス開発等に努めるよう働きかける。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	314	評価年度	令和9年度事業
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	福祉センター管理費					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	地域支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.01	351	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容		
	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 大田原市保健福祉センター
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 高齢者の支援や乳幼児の健診等に利用されている施設であるが、建築から30年以上経過しており建物や設備に不具合が生じている。 建物の修繕や設備の更新により不具合を解消する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 改修計画に基づいた建物の修繕や設備の更新を行う。 また、改修計画にない不具合が認められた場合は、緊急性の有無を判断した上で適切に対処する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 適切な維持管理を行うことにより施設の寿命を延ばし、併せて利用者の利便性を向上させる。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①トップライト 改修	トップライト改修工事実施	1	式
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①屋根 寿命延伸	法定耐用年数	15	年
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	トイレの洋式化、洗面台の自動化工事を行った。 研修室1・2の空調設備の更新を行った。 ロビーや廊下等の照明についてLED化を行った。 キュービクルの点検時に指摘を受けていた箇所の更新を行った。 不具合のあった身障者用トイレドアの更新を行った。 不具合のあった玄関ポーチの修繕を行った。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	16,096	11,295			
	(c) コストの対前年比		70.17%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 高圧受変電設備 機器改修	1	式	1	1	増加指標	100.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 高圧受変電設備 寿命延伸	15	年	15	1	増加指標	100.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	衛生器具・給排水設備改修工事や空調更新工事、受変電機器更新工事を行い、地域包括支援センターの運営や市の事業が円滑に進むように修繕計画を立てて更新していく。	
	前年度からの改善結果	改善した	トイレの洋式化や研修室のエアコンの更新、照明のLED化を行った他、不具合のあった玄関ポーチや身障者用トイレドア等の修繕・更新を行ったことで利便性・安全性が向上した。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	地域包括支援センターの事務所としてだけでなく、市の乳幼児健診や西部地区社会福祉協議会の配食サービスに使われている施設であるため、今後も継続して施設を利用できるように修繕工事を行う必要があるが、必要な修繕工事を行うことができた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	築30年以上の施設であるため、空調機器などの更新が必要となる。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	空調更新工事等を行い、地域包括支援センターの運営や市の事業が円滑に進むように修繕計画を立てて更新していく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	所要の設備更新工事や修繕等を行い、地域包括支援センターの運営や市の事業が円滑に実施できるように管理していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	193	評価年度	令和9年度事業
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	ねたきり高齢者等介護手当支給事業					計 画	おおたわら国造りプラン	
担 当 名	部 名	課 名	係 名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	高齢支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.01	352	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 ねたきり高齢者等(ねたきり高齢者・認知症高齢者・重度身体障害者)を在宅で介護している者。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 ねたきり高齢者等介護手当を支給することにより、対象者の介護の労をねぎらうとともに福祉の増進を図る。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ねたきり高齢者等の在宅介護者に対し、手当を年2回(9月・3月)支給する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 ねたきり高齢者等の在宅介護者の身体的・精神的負担を軽減することをねらいとし、もって福祉の増進を図ることができる。

(2) 指標設定	指 標 内 容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	① 手当支給金額	予算から	7,100	千円
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 手当支給延月数	前年度実績より	1,993	月
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	要介護認定の結果、要介護4又は5の認定を受けた在宅のねたきりや認知症の高齢者等の介護者に対して、介護手当を支給している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	5,435	6,222			
	(c) コストの対前年比		114.48%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 手当支給金額	7,100	千円	5,415	1	増加指標	76.30	%	c	c
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 手当支給延月数	1,993	月	1,805	1	増加指標	90.60	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		介護者の労をねぎらい在宅福祉の向上を図るため、関係機関と連携を図りながら推進していく。 他市町の介護手当支給要件や状況を確認し事業が適切かどうか確認する。
	前年度からの改善結果	改善した	各施設と連携し支給月の前に入院やショートステイ利用を再度確認した。 ケアマネジャー等の説明会等を通じて事業概要、申請方法等の周知に努めた。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	B	A	福祉課との連携により、障害者に対し事業周知及び介護手当の認定を行った。また、ケアマネジャーとの連携を密にし、申請や変更、喪失の手続きを的確に行うことができた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	対象者を詳細に把握する方法がなく、申請漏れや超過給付が発生する可能性がある。 入院や介護認定の区分変更等の変更・喪失把握と届の提出について、ケアマネジャーの協力を要する。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	介護者の労をねぎらい在宅福祉の向上を図るため、引き続き関係機関と連携を図りながら推進していく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	事業を継続し、介護者の労をねぎらうことで在宅福祉の負担軽減を図ることとする。 ケアマネジャー等と連携を図りながら該当者への周知を徹底し、新規認定申請を遅滞なく行う。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	197	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	高齢者支援事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	高齢支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.03	71	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 在宅の要援護高齢者及びひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 要援護高齢者及びひとり暮らし高齢者等に対し、住み慣れた地域社会の中で安心して生活していくことができるような支援をするとともに、要援護高齢者等の保健・福祉の向上を図る。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 介護保険の訪問介護に含まれない軽易な日常生活の支援を行う。 外出支援事業においては、福祉車両により居宅から医療機関等までの「通院等の交通の便」を確保する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 高齢者の自立と生活の質の確保、寝たきり予防に寄与する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①軽度生活援助事業利用回数	前年度の実績から5%増加	1,500	回
			②高齢者等外出支援事業決定人数	前年度の実績から5%増加	128	人
			③緊急通報装置新規取付件数	月1件×12月	12	件
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①軽度生活援助事業利用者数	あんしんプラン(第8期計画)から	138	人
			②高齢者等外出支援事業利用者数	あんしんプラン(第8期計画)から	542	人
			③緊急通報装置利用件数	あんしんプラン(第8期計画)から	150	件

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	各要綱に基づき、生活支援に関する各種サービスを提供した。 外出支援事業に使用している車両については、走行距離が毎年1台当たり平均3万キロを超えて走行している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	30,662	36,363			
	(c) コストの対前年比		118.59%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 軽度生活援助事業利用回数	1,500	回	1,420	1	増加指標	94.70	%	a	a
	② 高齢者等外出支援事業決定人数	128	人	121	2	減少指標	100.00	%	a	
	③ 緊急通報装置新規取付件数	12	件	18	1	増加指標	150.00	%	a	

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 軽度生活援助事業利用者数	138	人	91	1	増加指標	65.90	%	c	c
	② 高齢者等外出支援事業利用者数	542	人	394	1	増加指標	72.70	%	c	
	③ 緊急通報装置利用件数	150	件	92	1	増加指標	61.30	%	c	

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	今後も高齢者の各種在宅サービスを実施し、高齢者の自立と生活の質の確保、寝たきり予防に寄与する。 外出支援車両の的確な運用と更新の見極めを行う。 必要な情報を地域に提供し、災害時や緊急時の際に活用してもらう。	
	前年度からの改善結果	改善した	適切に高齢者の各種在宅サービスを実施し、高齢者の自立と生活の質の確保、寝たきり予防に努めた。 外出支援車両の運用について実態を把握し、更新の見極めを行った。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	B	A	効率性、有効性の評価が低くでているが、対象者にとって地域や家族(携帯電話等も含め)の見守りや生活支援サービスの利用は不可欠のものであり、サービスの利用も浸透してきていると考えられる。 今後も継続して生活支援サービスを提供する必要がある。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	申請にあたり、ケアマネジャー等の協力と理解を得る必要があることから、広報周知や研修などを行う必要がある。 外出支援事業に使用している車両については、修繕費が嵩む状況にあるため、計画的に更新を行う必要がある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	今後もケアマネジャー等と協力しながら高齢者の各種在宅サービスを実施し、高齢者の自立と生活の質の確保、寝たきり予防に寄与する。 外出支援車両の的確な運用と更新の見極めを行う。 必要な情報を地域に提供し、災害時や緊急時の際に活用してもらうことを検討する。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	引き続き各種の高齢者向け在宅サービスを継続し、高齢者の自立した生活とその質の確保を図る。 特に外出支援事業について、運用車両の更新方法を検討する。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	196	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	老人保護措置事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	高齢支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.03	71	02	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 ・環境上の理由及び経済的理由により在宅において生活することが困難な高齢者 ・墓地、埋葬等に関する法律第9条第1項による対応。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 ・環境上の理由及び経済的理由により在宅において生活することが困難な高齢者を入所させ養護するとともに、その者が自立した日常生活を営み、社会的活動に参加するために必要な指導及び訓練その他の援助を行う。 ・身寄りのない高齢者等における葬祭執行とそれに係る事務。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ・措置についての相談は随時受け、生活環境や経済状況を調査した上で、入所判定委員会を開催し、措置の実施を決定する。 ・関係機関からの相談に応じ、墓地埋葬法に基づき葬祭執行、扶養親族調査などを行うとともに、会計処理を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 ・環境上の理由及び経済的理由により在宅において生活することが困難な高齢者を措置入所することにより、心身の健康の保持及び生活の安定が図れる。 ・葬祭執行の困難な引き取り手のない遺体等の葬祭を執行することができる。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①調査件数	前年度実績	33	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①入所者数	前年度末在所者数	54	件
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	・保護措置を必要とする高齢者に対して必要な措置を実施し、日常生活を安定させた。 ・緊急で保護を要する高齢者へ粘り強く対応し、的確に助言するとともに迅速に措置を実施した。 ・墓地埋葬法に関しては、病院や警察からの情報をもとに調査をし、遺体を引き取り滞りなく葬祭を執行した。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	143,526	154,946			
	(c) コストの対前年比		107.96%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 調査件数	33	件	44	1	増加指標	133.30	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 入所者数	54	件	56	1	増加指標	103.70	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		対象者や関係機関への積極的な調査と緊急時の迅速な対応をさらに強化する。
	前年度からの改善結果	改善した	対象者や関係機関へ積極的な調査と調整を行った。緊急時には迅速な対応を適切に実施した。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	様々な事情により保護措置を必要とする高齢者が増加しており、保護中の高齢者も居ることから事業は不可欠である。 養護老人ホームへの入所相談、短期入所や措置入所等について、緊急時にも迅速に対応することができた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	・高齢者の実態を把握し、必要がある場合は迅速に措置を実施する必要がある。 ・各関係機関(基幹型支援センター、包括支援センター、社会福祉協議会、民生員等)と連携し、綿密な情報交換や調整を行う必要がある。 ・墓地埋葬法においては緊急的に発生し、かつ、費用負担や関係機関との調整、苦情処理、詳細な調査を迅速に行わなければならないため、その時間を確保しなければならない。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	対象者や関係機関への積極的な調査、調整を行うと共に、緊急時でも迅速に対応できるようにする。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	高齢者のセーフティネットとして、老人福祉法の規定に基づき適切に保護を実施する必要がある。 複雑化する対象者の事情を踏まえ、短期入所措置など迅速・柔軟に対応していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	192	評価年度	令和9年度事業
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	敬老費					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	高齢支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.03	72	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 敬老会補助金・・・自治会等(金額は敬老会事業の対象となる80歳以上の高齢者人数で算定) 敬老祝金・・・80歳、100歳、101歳以上
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 敬老会補助金・・・自治会等が高齢者の長寿を祝う敬老会を主催する場合に自治会等に対し補助金を交付する。 敬老祝金・・・敬老祝金を贈ることにより、長寿を祝福し、敬老の意を表する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 敬老会補助金・・・自治会等が開催する敬老会の費用を助成する。 敬老祝金・・・敬老のお祝いを、80歳は地域の民生委員に配布をお願いし、100歳と101歳以上は市長及び高齢者幸福課で配布する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 自治会等が主催する敬老会に補助することで、地域ぐるみで高齢者の長寿を祝う事業を支援する。 敬老祝金を贈ることにより、市として長寿を祝福し、敬意を表する趣旨がある。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①敬老会補助申請数	前年度の実績	188	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①敬老祝金交付人数	前年度の80歳、100歳以上の交付実績	661	人
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	要綱に基づき、対象者に対して補助金、祝い金を交付した。市民の長寿を祝うため実施しているものであり、市民からは好評である。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	17,508	22,071			
	(c) コストの対前年比		126.06%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 敬老会補助申請数	188	件	183	1	増加指標	97.30	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 敬老祝金交付人数	661	人	546	1	増加指標	82.60	%	b	b
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		【敬老会補助金】顔の見える自治会等の組織づくりを推奨する。自治会負担減のため、政策推進課取扱いの「自治会運営費補助金」等との事務集約を検討することとする。 【敬老祝金】対象者について把握に努めると共に、民生委員に広報周知を行い、理解を得ていく。
	前年度からの改善結果	改善した	【敬老会補助金】集会型の敬老会の開催を推奨する内容を含めた通知を自治会長宛てに送付した。 【敬老祝金】祝金の額について問い合わせが未だにあるため、説明に取り組んだ。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	要綱上に定められた敬老祝金、敬老会補助金交付の目的は達成していると考えられる。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	【敬老会補助金】対象者確認用として市作成の自治会加入者名簿を各自治会に配布しているが、一部未確認で申請する自治会がありトラブルが発生することがある。コロナ禍以降、補助金額の商品券等を配布するだけになっている自治会等がある。 【敬老祝金】対象者が増加傾向にあるため、配布協力先である民生委員の負担、対象者の把握・配布に係る事務量及び事業費の増加が懸念される。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	【敬老会補助金】引き続き、顔の見える自治会等の組織づくりを推奨する。また、申請受付の際に、自治会内で対象者の確認をしたうえで申請をしているか声掛けをして確認する。 【敬老祝金】対象者について把握に努めると共に、民生委員に広報周知を行い、理解を得ていく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	敬老事業を実施することで、高齢者の居場所づくりや生きがいつくりにつなげていく。 敬老会補助金は、自治会等組織の事情に留意しながら物品の配布だけとならないよう誘導を図る。 敬老祝金は、対象者の適切な把握に努めると共に、民生委員など関係者へ適切に協力依頼を行う。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	198	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	高齢者いきがい対策事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	保健福祉部	高齢者幸福課	高齢支援係			政策	政策4 いたわり、支えあい、すべての市民が健康で安心して暮らせる心のかよったまちづくり	4
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(23)高齢者福祉の充実と介護保険事業の充実	23
	一般会計	03.01.03	574	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 ①いきいきクラブ(老人クラブ)及びその会員等 ②自主的趣味活動を行う団体及び個人
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 高齢者の生きがいづくり及び介護予防を推進するため、いきいきクラブ(老人クラブ)や自主的な趣味活動を行うグループの活性化を図る。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ①単組及び市老人クラブ連合会の活動・運営を支援する。(補助金交付・情報提供・助言・PRなど) ②清流荘等で活動する自主活動グループに対し活動の場を提供する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 いきいきクラブ(老人クラブ)や自主活動グループが活性化することで高齢者の生きがいづくりや介護予防が促進され、介護給付費や高齢者福祉事業費の削減、健康寿命の延伸、地域の活性化が図れる。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①単位老人クラブ補助金交付件数	前年度実績	37	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①単位老人クラブ数	前年度実績	46	クラブ
			②清流荘・佐良土多目的交流センター陶芸室使用許可時間数	前年度実績	814	時間
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	①単位老人クラブ、老人クラブ連合会に対して補助金を交付し、活動費の一部を支援した。 ②自主グループ活動に対しては、清流荘、佐良土多目的交流センター等の施設貸出しを行い、活動の場を提供した。(施設使用料徴収あり)
(2)備考	令和3年度から自主活動グループ支援として、清流荘(希望の家)及び佐良土多目的交流センター陶芸室の貸出しを行っている。

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	8,908	11,609			
	(c) コストの対前年比		130.32%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	14	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 単位老人クラブ補助金交付件数	37	件	29	1	増加指標	78.40	%	c	c
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 単位老人クラブ数	46	クラブ	41	1	増加指標	89.10	%	b	b
	② 清流荘・佐良土多目的交流センター陶芸室使用許可時間数	814	時間	819	1	増加指標	100.60	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		いきいきクラブ(老人クラブ)活動推進、清流荘等の自主的活動支援に努め、健康寿命の延伸に寄与する。
	前年度からの改善結果	改善した	いきいきクラブ(老人クラブ)活動推進、清流荘等の自主的活動支援に努めた。それぞれの団体等の活動に参加することにより、高齢者の健康寿命の延伸に寄与していると推測される。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	B	A	高齢者の自主的な趣味活動を支援するため、相談対応等の支援や施設貸出しを適切に行っている。 クラブ数や参加者数などが減少傾向にあるが、高齢者の生活を豊かなものにするとともに明るい長寿社会づくりに資する目的があることから、既存の活動について支援すると共に、新規参加者の増による活性化に取り組む必要がある。

5.今後の取組に向けて（Act）

(1) 事業実施上の課題等	単位老人クラブや利用団体等において高齢化が進んでおり、新規加入者の確保や円滑な事業継承等について懸念がある。適切に指導していくと共に、事業実施内容についても確認していく必要がある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	単位老人クラブや利用団体等の活動の活性化や、清流荘等の施設利用促進に努める。また、団体等に対する適切な助言等を行うと共に、運営状況や事業実施状況についても留意していく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.15	A	老人クラブに対する補助金交付を継続しながら、会員の固定化・高齢化に対する対策を実施する必要がある。 高齢者向け施設について、空調修繕等の適切な維持管理を行い、利用者の安全確保に努める。